

山形県立霞城学園高等学校 部活動方針

霞城学園高校部活動基本方針

本校の部活動は、学校教育の一環として教育課程との関連を図り実施する。また、本校の教育目標・教育方針に則り、自主的・自発的に行われるものであり、合理的かつ効果的に取り組むものである。

◎教育目標

- 1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成
- 2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成
- 3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成

◎教育方針

- 1 人づくりの基となる生活基盤を確立し、心身ともに健康な生徒を育てる。
- 2 将来の自分を創造する力と、自己実現のため自ら考え行動する力を育てる。
- 3 学ぶことの楽しさと大切さを実感できる学習指導を展開する。
- 4 自律の心を養うとともに、社会性と協調性のある生徒を育てる。

1 適切な運営のための体制整備

- (1) 生徒や教員の数等を踏まえ、円滑に活動が実施できるよう、以下の部活動を設置する。

《定時制》

ア 体育部

陸上競技部・卓球部・軟式野球部・バドミントン部・バスケットボール部

イ 文化部

美術部・文芸部・囲碁部・ワープロ部・音楽部・園芸部

《通信制》

ア 体育部

陸上競技部・バドミントン部・卓球部・バレーボール部・バスケットボール部

イ 文化部

書道部・手芸部・囲碁将棋部・PCキャリア部

※一つの部に対し複数の顧問配置を原則とする。

- (2) 部活動運営委員会を設置し、各部活動の取り組みの確認や評価を行い、改善に努める。また、顧問は定期的に活動計画及び活動実績を作成し、校長に提出する。その結果をHP等で公表する。

2 合理的でかつ効果的・効率的な活動の推進

- (1) 顧問は、部活動の計画実施に当たり、生徒の心身の健康管理・事故防止に努めるとともに、体罰・ハラスメントの根絶を徹底する。
- (2) 顧問は、各部活動の特性を十分に踏まえたうえで、科学的トレーニング等を積極的に導入し、休養を適切に取りつつ、短時間でも最大の効果が得られる指導を研究・実践する。

3 適切な部活動の運営

(1) 部活動の休養日及び活動時間については、生徒の心身の健康に配慮し、以下を基準とする。

※練習試合や大会等を除く。

ア 休養日（週当たり）

●平日：1日以上 ●週休日：1日以上

イ 活動時間

●平日：2時間程度 ●週休日等：3時間程度

ウ 長期休業中の休養日

●長期の休養期間（オフシーズン）を設け、年間活動計画に示す。

エ その他

●定期考査1週間前は部活動休止日とする。

●年末年始等の学校閉庁日は部活動休止日とする。

●特に強化指定部等は設けない。

●特別な場合は校長が許可する。

4 部活動における事故防止

(1) 学校は、学校の管理下において事故が発生した場合に備え、学校の危機管理マニュアル（部活動中の事故を含む）を確立し、平素から顧問・生徒・学校とともに共通理解を図る。

(2) 顧問は、生徒の既往症（心臓疾患やアレルギーの有無等）を事前に把握し、万一の際の対処法を養護教諭、生徒本人及び保護者と確認し、活動前に生徒の体調確認を行うなど、事前の事故防止を徹底する。

(3) 顧問は、活動場所、設備、備品及び用具等の安全点検について、日常的に行う。また、応急処置（AEDの使用等方法も含）については、講師を招聘しての校内研修会等を開催し、確実に対応できるように努める。

(4) 顧問は、活動中にも生徒の体調確認を行うとともに、生徒が体調不良の際には、自らすぐに申し出ることができるよう、生徒と円滑なコミュニケーションを図る。また、生徒に対し、自ら事故や熱中症等を回避することができるよう指導し、以下の点について適切に対応する。

●高温・多湿時において、部活動等が予定されている場合については、活動の延期や見直し等、柔軟な対応を行う。尚、日程調整の関係等でやむを得ず開催する場合には、WBGT等により環境温度の測定を行い、WBGT 31℃以上を指している間は原則として活動中止、WBGT 28℃以上の場合、参加する生徒の適切な選別、こまめな水分・塩分の補給や休憩の取得、観戦者の軽装や着帽等、生徒の健康管理を徹底することとし、活動中に熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、「熱中症対応フロー」に従い、迅速に対応する。

●雨天時等にやむを得ず活動する場合は、低体温症になることのないよう、健康状態に十分注意する。

●雷や暴風雨の際には、活動の中止や中断の判断を的確に行う。

2019年3月〇〇日 策定

本方針は、県教育委員会の方針に則り作成した。尚、2019年4月1日より実施する。